

伊丹・宝塚社保協「後期医療」廃止宣伝行動

差別温存の「新制度」にも注意を

中井支部長、西山副支部長、小泉幹事が白衣の訴え



JR伊丹駅前で市民と対話して署名を広げる小泉先生(上右)と西山先生(同左)。中井先生も阪急逆瀬川駅前で新制度の問題点を解説(中)若者も署名協力(逆瀬川駅前 下)

北阪神支部が参加する社会保障をよくする宝塚の会(宝塚社保協 中井通治支部長・脇野耕一副支部長が副会長)と同伊丹の会(伊丹社保協 小泉勇幹事が会長)は10月15日、後期高齢者医療制度保険料の年金天引日にあわせ、阪急逆瀬川駅前、JR伊丹駅前でそれぞれ制度の即時廃止を求める宣伝・署名行動を行った。のべ22人が参加、150筆の署名を集めた。

宝塚で宣伝にたった中井先生は「後期医療の即時廃止は民主党政権の公約だったはず。保険料が上がり続ける制度廃止先送りは許されない」と訴えた。

また、伊丹で宣伝にたった西山茂樹先生(歯科・副支部長)は「後期医療に代わるものとして議論されている『新制度』は、“高齢者の大多数を現役世代とは別勘定の国保に加入させる“としており、高齢者を差別して負担増と医療抑制を強いる後期医療の根幹をそのまま残すもの」と批判。小泉先生も「世界でただ一つの年齢による医療差別制度の即時廃止を」と署名協力を呼びかけた。

協力者からは「家人が後期高齢者だが、年は誰でも重ねるもの。自分の問題としても早く廃止してほしい」「民主党政権は外交も内政も頼りないことばかり。新制度と現行制度はほとんど差異がないことがよくわかった」「これ以上悪い制度にならないか心配」などの意見が寄せられた。

兵庫県保険医協会

北阪神支部 ニュース

2010年 11月5日号 No.207
発行者 兵庫県保険医協会北阪神支部
支部長 中井通治
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階
☎(078)393-1801 FAX(078)393-1802
http://www.hhk.jp/

第25回支部総会・記念講演感想文

ワクチン後進国・日本への処方箋

宝塚市 脇野 耕一

北阪神支部は10月2日、伊丹市立商エプラザで第25回総会を開催。総会議事では中井通治支部長など役員体制を確認。あわせて09年度活動報告と10年度方針を採択した。また、国立成育医療研究センター・第一専門診療部感染症科医長の齋藤昭彦先生が「ワクチン行政の現状と課題—米国の予防接種制度から学ぶこと」をテーマに記念講演。会員やスタッフ、市民ら42人が参加した。感想を紹介する。



「日本にもワクチン諮問委を」と齋藤先生

齋藤先生の講演はわかりやすく、日本がワクチン後進国であるだけでなく、制度そのものが硬直的であり、そのために、「VPD」すなわち「ワクチンで防げる病気」のリスクに子どもや市民がさらされている実情を詳しく知ることができました。

また、①米国では、日本と比べ推奨されているワクチンの数が多く、接種率も高い、②「ACIP」すなわち「予防接種の実施に関する諮問委員会」が米国の予防接種政策の決定に大きな役割を果たしている、③髄膜炎の診断、治療は難しく、後遺症、死亡率も高く、ワクチンによる予防が重要であることを詳しく教えていただきました。

そして、日本の子どもたちを「VPD」から守るためには、必要なワクチンが国から無償で提供され、安心してワクチンを接種できる社会環境の整備が必要であること。そのためには、①予防接種法の改定～「任意接種」(個人が責任を負うワクチン)ではなく「定期接種」(国が責任を負うワクチン)に、②日本版「ACIP」の検討～ワクチン接種は国民を「VPD」から守る国策として位置づける、③国民への教育～ワクチン接種は現代社会における市民の責任であることの認識を広める、との3つを提言されました。

フロアからの質問にも丁寧にお答えいただき、参加者から、聴講して良かったとの感想が多く寄せられました。

= 2面に関係記事

講演のその他の感想

・ 貴重なご講演ありがとうございました。小児科医不足の解消の意味でも早急な各種ワクチン接種による病気の予防が必要と感じました。国民皆保険や乳児への医療費補助がかえってワクチン接種を妨げているのかとも…。予防の補助への切りかえが必要なのかも。MRの接種率も進みません。神戸大学が行っているような麻疹登録制度の国レベルでの実施を求めます (川辺郡 医師)



講演では、42人がワクチン行政の今後を学びあった(上)

総会議事では「川西での役員発掘も視野に入れ、今年度も頑張ろう」との討論が(下)

○祝電・メッセージ (順不同・敬称略)

■医師会・医療関係団体■

原 弘 (伊丹市医師会長)、三木 篤志 (川西市医師会長)、坪井 新一 (伊丹市歯科医師会長)、茅野涼一 (宝塚医療生活協同組合理事長)

■首長・議員■

藤原 保幸 (伊丹市長)、中川 智子 (宝塚市長)、大塩 民生 (川西市市長)、池畑浩太郎 (兵庫県議員)、川西市議会公明党議員団

○総会・懇親会ご来賓 (順不同・敬称略)

■議員■

いちむら浩一郎 (衆議院議員・代理)、ねりき恵子 (兵庫県議員)、松崎 克彦 (伊丹市議員)、上原秀樹 (同)、高塚ばん子 (同)、林 実 (同)、田中こう (宝塚市議員)、大島淡紅子 (同)

兵庫県保険医協会北阪神支部役員体制

(2010年10月現在・地区別・五十音順・敬称略)

本年度もよろしくお願ひします！！

■支部役員 (2009年9月～2011年8月)

<支部長> 1人 中井 通治 (宝塚市)

<副支部長> 4人 川村 雅之 (伊丹市) 西山 茂樹 (伊丹市)
林 宗茂 (伊丹市) 脇野 耕一 (宝塚市)

<幹事> 13人 青木 英夫 (伊丹市) 上り口寛武 (伊丹市)
太田 威彦 (伊丹市) 大森 英夫 (伊丹市)
工藤大八郎 (伊丹市) 小泉 勇 (伊丹市)
城田 勲 (伊丹市) 竹内 重人 (伊丹市)
谷口 紀善 (伊丹市) 安井 武義 (伊丹市)
高 俊永 (宝塚市) 澤村 新 (宝塚市)
田中 健一 (宝塚市)

宝塚社保協第6回総会

民主党流「社会保障市場化」策に注意

金沢大・横山教授が学習記念講演



「形を変えた市場原理主義に注意」と横山先生

社会保障をよくする宝塚の会(宝塚社保協)は9月28日、宝塚市立西公民館で第6回定期総会を開催。30人が参加した。総会議事では「社会保障を優先する政治への転換を」とする決議が採択されたほか、中井通治支部長、脇野耕一副支部長が副会長に再選された。

学習講演では金沢大学教授の横山壽一先生が「社会保障の再構築～参院選の結果から」と題して講演。講師はまず、現在の社会保障の情勢をつかむポイントとして「民主党の基本路線と菅政権の性格を踏まえて『新成長戦略』『地域主権改革』などの具体的政策の特徴を理解することが肝要」とし、反構造改革の側面を持った鳩山政権を再び保守の枠組みに引き戻し、財界とアメリカの意向に沿った政治を進めようとする菅内閣の姿勢を『新成長戦略』『地域主権』を両輪に一路、構造改革路

線とアメリカ追従に突き進む体制」と批判した。

また講師は、新成長戦略の特徴として「法人税引き下げによる企業の競争力強化とセットになった規制緩和・市場化路線にポイントがある」とし、社会保障分野の具体例として、「ライフイノベーションによる健康大国戦略」に明記された、“混合診療の解禁”や、医療行為を看護師や介護師に担わせる“医療行為グレーゾーンの整理・明確化”などを紹介。自民党以上の医療・福祉の規制緩和策に警鐘を鳴らした。

質疑応答では「菅政権は“政治主導”などと言うが、その実は官僚のつくったシナリオ通りの『戦略』を実行しているだけではないか」などの意見が出された。

宝塚社保協の09年度の主な取り組みと成果

- ・ 後期高齢者医療制度の廃止を求める「年金天引き日行動」を6回実施。署名計332筆を集める
- ・ HPV(子宮頸がん)ワクチン、小児肺炎球菌ワクチンの接種費用助成、国保窓口負担金減免問題についての対市申し入れを実施 → HPVワクチンは2010年11月実施
- ・ 自治体キャラバンを実施。国保窓口負担減免制度の要綱策定を確約させる